

未来を見通す力をもつ生徒の育成
～キャリア教育に視点を当てた授業づくり～

錦江町立錦江中学校 教諭 大渡 昌幸

目 次

1	研究主題設定の理由	1
2	研究の目標	2
3	研究仮説	2
4	研究の方向性	2
5	研究の協力性	2
6	研究の継続性	3
7	研究の構想	4
8	研究の実際	4
	(1) 振り返りを効果的にする視点：見通す力	
	(2) 振り返りを効果的にする視点：広げる力	
	(3) 振り返りを効果的にする視点：学び行く力	
	(4) 振り返りを効果的にする視点：キャリア・パスポートや「錦江スタンダード」を 活用した学級活動	
9	研究の成果と今後の課題	8
	(1) 研究の成果	
	(2) 今後の課題	

〔引用・参考文献〕

・『小・中学校学習指導要領解説編(各教科等)』	文部科学省	平成 30 年
・『小学校キャリア教育の手引き(改訂版)』	文部科学省	平成 23 年
・『中学校キャリア教育の手引き』	文部科学省	平成 23 年
・『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』	中央教育審議会答申	平成 23 年

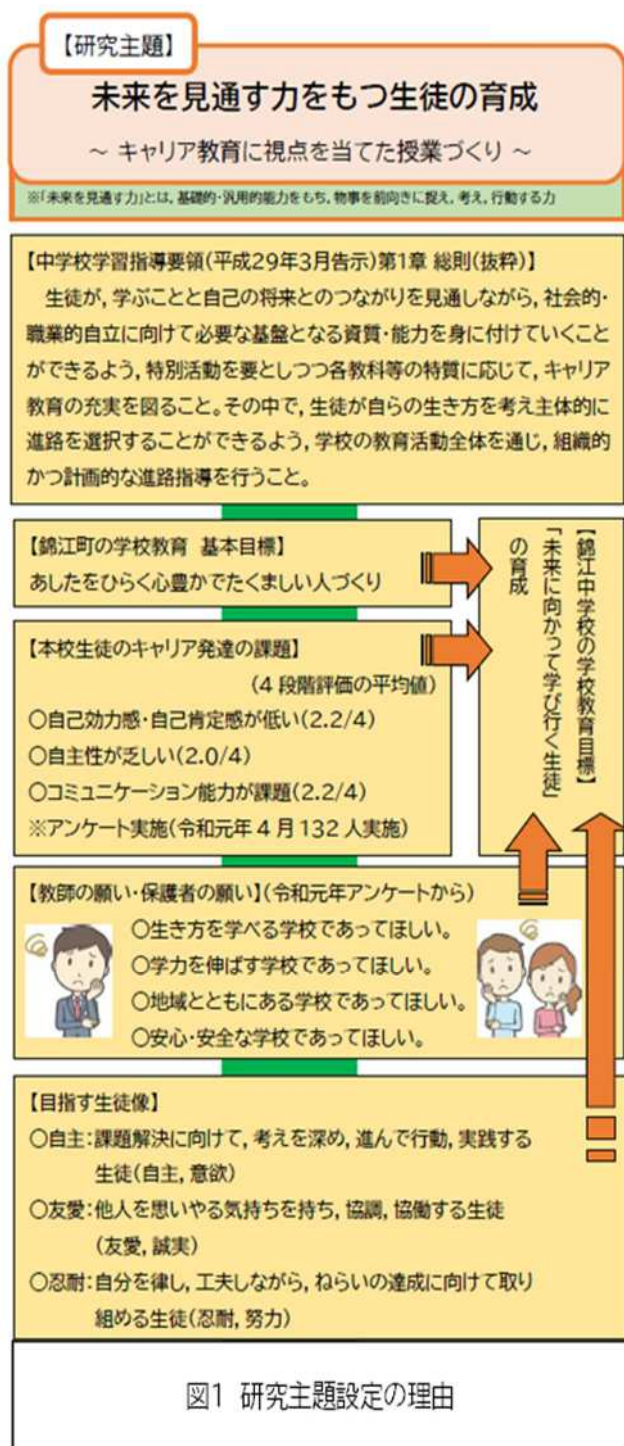
1 研究主題設定の理由

今日、日本社会の様々な領域において、構造的な変化が進行している。産業構造の劇的な変化、AI(人工知能)に代表される情報革新など、我々の生活の様々な側面で多様なパラダイムが急速に転換している。学校生活から職業への就労移行プロセスに問題を抱える若者が増え、19歳から35歳までの年齢層で、若年無業者が全国で約56万人に達し、社会問題となっている。このような産業や経済の変容から、生徒たちが将来に不安を感じ、学校での学習に自分の将来との関係で意義が見いだせず、学習意欲が低下し、学習習慣が確立していないといった状況が指摘されている。

学習指導要領総則では、特別活動を要として生徒の社会的自立、職業的自立を図るキャリア教育が明記され、全ての教育活動においてキャリア教育の視点で展開されることが求められている。

令和元年度の全国学力・学習状況調査やキャリア教育アンケートの結果、本校生徒のキャリア発達の課題(4段階評価の平均値)として、自己効力感・自己肯定感、自主性、コミュニケーション能力が課題であることが明確となった。また、同年に実施した教職員及び保護者へのアンケート結果から、「生き方を学べる学校であってほしい。」、「学力を伸ばす学校であってほしい。」、「地域とともにある学校であってほしい。」、「安心・安全な学校であってほしい。」という願いがあることが分かった。

このことから、「学びと社会がつながること」を生徒が実感できる教育の実践と錦江町の活性化につながるキャリア教育の実践という課題を見付け、課題解決のため、以下の二点に取り組むこととした。一点目は、「教育活動全体を通じ、生徒一人一人の進路意識を高め、学業の必要性や意義を実感し、自分の生き方や在り方と結び付けた教育」の実践をすること。二点目は、「社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を発達の段階に応じて育成すること」である。(図1)



本校生徒については、これまでの様々な調査結果(全国学力・学習状況調査、鹿児島学習定着度調査等)から、「ある状況の中で目標を達成するための能力を自らもっていると思える認識」や自主性、コミュニケーション能力に課題が見られた。また、学力向上のためにも、学習指導要領で重視されている「特別活動を要として、各教科の特質に応じてキャリア教育の充実を図ること」を意識した授業構想も必要だと考え、「物事を前向きに捉え、考え、行動する力」や「基礎的・汎用的能力」を高める授業改善の取組として「振り返りの工夫」を設定し、授業実践を行った。

2 研究の目標

未来を見通す力をもつ生徒の育成 ～キャリア教育に視点を当てた授業づくり～

本校生徒に様々な教育活動を通して、「振り返りの力」が身に付けば、「未来を見通す力」が身に付くと考え、研究主題を設定した。「未来を見通す力」を、本校では、「基礎的・汎用的能力をもち、物事を前向きに捉え、考え、未来に向かって行動する力」と捉えた。

3 研究仮説

各教科の授業における「振り返りの工夫」や諸活動においてキャリア・パスポートの活用、長期的視点に立つ錦江スタンダードの作成と活用を行えば、未来を見通す力をもつ生徒を育成できるのではないかと。

4 研究の方向性

校内研修において、本校は「キャリア教育に視点を当てた振り返りの工夫」と研究テーマを設定し、日々の授業における振り返りシートやキャリア・パスポート、錦江スタンダードを4年間取り組むことでキャリア教育を推進してきた。「各教科の振り返りの工夫」を重点的取組として、「キャリア・パスポートの活用」、そして、小中連携で作成した「錦江スタンダード」という三つの取組から、研究仮説として、振り返りの力を身に付けさせるように注力すれば、「未来を見通す力をもつ生徒の育成」につながっていくだろうと考え、研究主題を設定した。一つ目は、特別活動を要として、「各教科等の特質に応じた振り返りシートの活用からキャリア教育の充実」を図ったことである。二つ目は、全教育活動を通じて行うキャリア教育を効果的に進める「社会に開かれた教育課程」や「キャリア・パスポートの作成と活用」である。三つ目は、異校種間で協働したキャリア教育を実践できるシステム(錦江スタンダード)の開発・実践である。(図2)

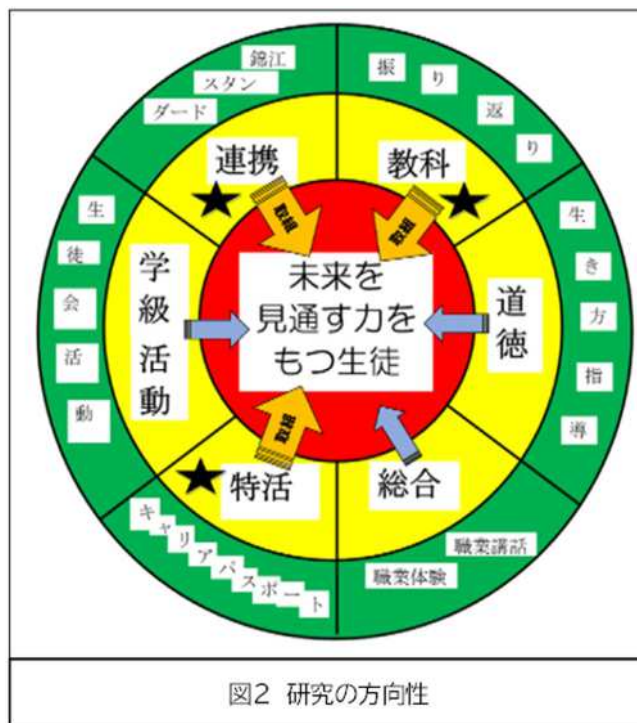


図2 研究の方向性

この三つの柱を設定し、研究実践を深め、これからの学校教育におけるキャリア教育の在り方を探究しており、学力向上における振り返りの工夫による取組に関しては4年目である。

5 研究の協力性

校内研修を進める上で、以下の四点について、協力・連携して取組を行った。

一点目は、校内の協働組織である。学校の教育活動全体を通じて行うキャリア教育を効果的に進めていくため、校長のリーダーシップの下、校内の組織体制を整備し、学年や学校全体の教師が共通の認識に立って指導計画の作成と実践をした。全職員が、それぞれの役割・立場において協力して指導に当たった。二点目は、家庭との協働である。キャリア教育を進めるに当たり、家庭(保護者)の役割やその影響を PTA や学校ブログ・学校便り等を通じて発信し、家庭(保護者)との共通理解を図りながら進めた。三点目は、地域や企業との協働である。生徒に将来の生活や社会、職業などとの関連を意識させ、キャリア発達を促すため、新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、新しい形での職場体験活動や社会人講話等の機会を確保し

た。また、「社会に開かれた教育課程」の理念の下、幅広い地域住民等(キャリア教育や学校との連携をコーディネートする専門人材, 高齢者, 若者, PTA・青少年団体, 企業・NPO 等)と目標やビジョンを共有し, 連携・協働して生徒を育んだ。四点目は, 異校種間の協力・連携・協働である。(幼)・小・中・高等学校で組織的かつ計画的な進路指導・キャリア教育を行うために, 各校種のつながりが明確となる「錦江スタンダード」を作成・活用し, 本校を中心とした小中高連携研修会を定期的
に実施している。(図3)

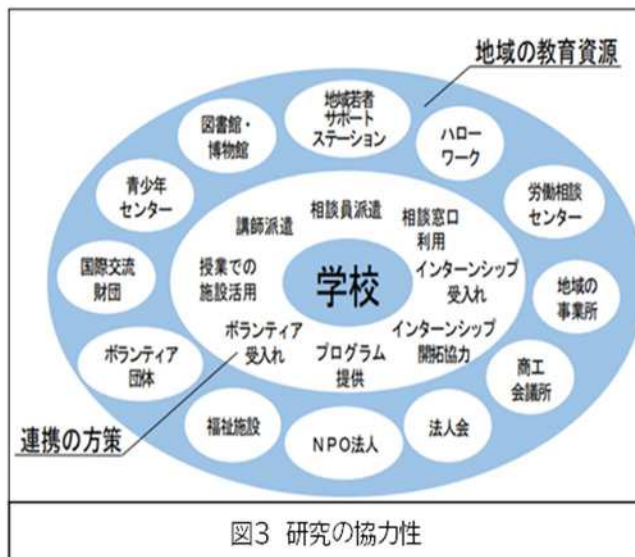


図3 研究の協力性

6 研究の継続性

令和元年度における本校の課題は, 学力向上であり, その解決に向けて, 全教科を通じて振り返りシートの活用を始めた。また, キャリア・パスポートの作成にも取り組み始めた。令和2年度, 小学校から中学校までの錦江スタンダードを作成した。令和3年度, 未来を見通す力をもつ生徒の育成のため, キャリア教育の視点に立った授業改善に取り組み始めた。また, 錦江スタンダードでは, 「幼稚園から高校まで」を作成した。このような校内研修での取組における継続性は, 以下の三点が挙げられる。一点目は, 学習や生活の見通しを立て, 振り返る教材(振り返りシート)を4年間, 継続して活用している。振り返りシートは, 小中連携を通じ, 錦江町の全学校で実践活用しているため, 学校, 家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て, 学んだことを振り返りながら, 新たな学習や生活への意欲につなげたり, 将来の在り方や生き方を考えたりする継続的な教育実践が継続できている。さらに, 日常生活を通じてキャリア教育につなげる振り返りシートと関連付けた教室掲示も継続的な取組の一助となっている。二点目は, キャリア・パスポートの4年間の継続的活用である。継続的に学びのプロセスを記述し, 振り返る教材として, 錦江町全ての学校でキャリア・パスポートを作成している。小・中・高等学校の異校種間の引継ぎについて, 定期的に研修会を設け, 組織的な取組が継続して行われている。三点目は, 「錦江スタンダード」の活用である。4年前



図4 研究の継続性

から, 本校を中心として, 幼稚園から高校までの 15 年間に渡るキャリア教育の全体計画を作成し, 錦江町全ての学校にて, 継続的な実践が実現できている。発達の段階に応じた体系的・系統的なキャリア教育を保護者や地域とも共通理解し, 地域全体でキャリア教育の推進, 継続的な実践できるよう取り組んでいる。なお, これら三点の取組については, 最低 10 年間をめどに今後も活用を継続していく。(図4)

7 研究の構想

「未来を見通す力をもつ生徒の育成」のために、「振り返りを効果的にする視点」として授業改善に取り組むに当たり、本校の校訓である、「自主・友愛・忍耐」を勘案し、「見通す力・広げる力・学び行く力」と設定し、以下の構想図を職員で共通理解して、校内研修に取り組んだ。(図5)

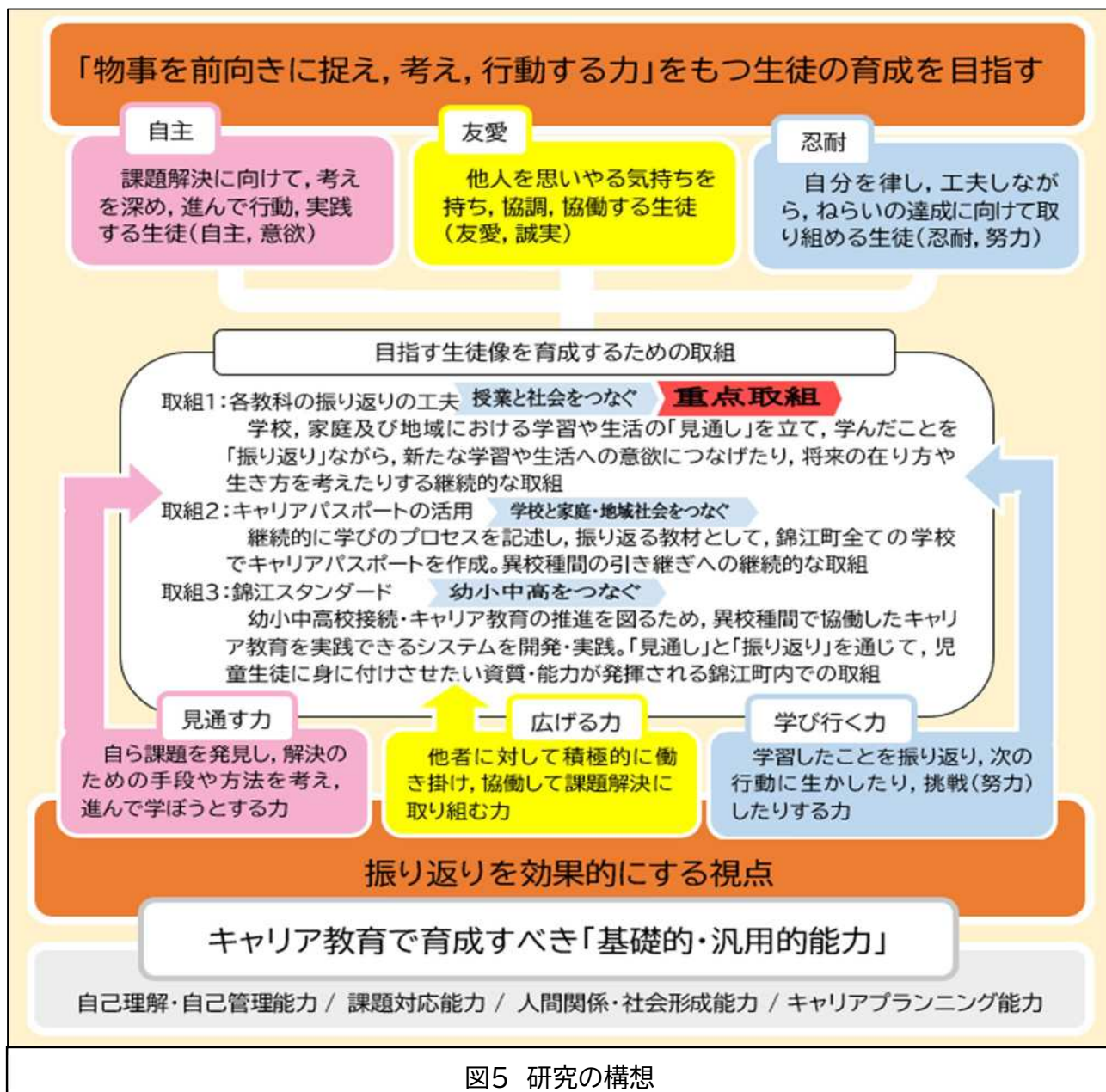


図5 研究の構想

8 研究の実際

日常の教科等の学びにキャリア教育の視点を入れた「振り返りシート」の実践を通して、「単元の学習内容」や「単元のねらいを達成するための授業展開の中にキャリア教育としての価値」を見だし、それを意識して学習へ取り組むことで、教科等の教育と社会をつなぐ教育を実践した。

「振り返りを効果的にする視点」として、「見通す力」・「広げる力」・「学び行く力」のそれぞれで、「目指す生徒の姿」を設定し、それがキャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」(自己理解・自己管理能力 / 課題対応能力 / 人間関係・社会形成能力 / キャリアプランニング能力)と、どのような関連があるかを分類した上で、「振り返りの工夫」につなげる教育実践を行った。以下に視点ごとの振り返りの工夫を掲載する。

(1) 振り返りを効果的にする視点：見通す力

目指す生徒の姿を設定し、各教科(英語科・理科をここでは紹介する)で、「目指すゴールの姿や具体的な相手や場面をイメージできるめあての設定」、「現象について予想を立てる場面での話し合い活動」を通して振り返りを効果的にしていく視点が明らかになった。

○ 「見通す力」：目指す生徒の姿

- 1 「前の時間に、私はどこまでできたのか」と思い出している。 (自己理解・自己管理能力)
- 2 めあてを書く前に、今日することを自分で考えている。 (キャリアプランニング能力)
- 3 自分が分かっていることは何で、まだ分かっていないことは何かを考えている。
(課題対応能力)
- 4 めあてを書いた後、「これはできる(分かる)ようになりたい」という目標をもっている。
(人間関係形成・社会形成能力)
- 5 めあてを書いた後、「答えはどうなるのかな」や「どうやったらできそうかな」と考えている。
(課題対応能力)

「見通す力」を育む教育実践例 ①

振り返りを効果的にするために、「目指すゴールの姿」や「具体的な相手や場面」をイメージできる、めあてを生徒とともにつくることで、「見通す力」を育成する授業づくりの実践

英語 めあて：錦江町の見所を英語で世界に発信しよう。

前の授業では何を習ったかな？


錦江町の魅力って何だろう？

多くの外国人観光客に錦江町を訪れてもらうためには、町おこしのためのイベントがあるといいのかな？

より多くの外国人観光客に錦江町を訪れてもらうために、錦江町の魅力を発掘し、外国人に「行きたい」と思わせる新たなイベントを考え、それを ALT の先生に伝えてみましょう。

前時で習った文法(不定詞や動名詞)で、錦江町の魅力を表現できるよ。

ALT へのプレゼンの様子



「見通す力」を育む教育実践例 ②

振り返りを効果的にするために、現象について予想を立てる場面での話し合い活動を実践することで、「見通す力」を育成する授業づくりの実践

理科 「イカの解剖実験」に向けて話し合い活動


無セキツイ動物のからだの作りには、どのような特徴があると思いますか？

どのように予想を立てればよいのだろうか？イカって、目、えら、ウロコ、胃とか、特徴があるのかな？

身近なところから考えてみてはどうだろうか？ヒトと無セキツイ動物を比較したらどうだろうか？

グループで予想したことを、解剖で明らかになった事との相違点を話し合ってみましょう。

イカの解剖実習をしている様子



振り返りを効果的にする視点(見通す力)の成果としては、生徒の学ぶ意欲の向上や自ら課題を見付け、解決する手段や方法を考え、進んで学ぼうとする姿が見られた。また、学んだことを「どう使うか」を理解していると効果的な振り返りにつながった。課題としては、学習意欲は徐々に醸成されるものであり、変容を捉えるには、ある程度の時間が必要であるため、今後も継続して取り組む必要があることが分かった。

(2) 振り返りを効果的にする視点: 広げる力

目指す生徒の姿を設定し、各教科(家庭科・保健体育科)で、「振り返りから気付いたことを広げた授業づくり」、「話し合い活動の工夫」をすることで、振り返りを効果的にする視点が見られた。

○ 「広げる力」: 目指す生徒の姿

- 1 ノートや黒板を見て、「ここまでは分かっているかな」と確認している。
(自己理解・自己管理能力)
- 2 「どんな方法で考えたらいいのかな」と考えている。
(キャリアプランニング能力)
- 3 分からなくなったら、「どこで分からなくなったのかな」と考えている。
(課題対応能力)
- 4 分からなくなったら、違う考え方や解き方を確かめている。
(課題対応能力)
- 5 自分の考えと比較しながら友達の考えを聞いている。
(人間関係形成・社会形成能力)

「広げる力」を育む教育実践例 ①


家庭 めあて: 家庭や社会の一員としてのかかわり方を考えよう。


保育実習で、幼児と触れ合っただうでしたか?

幼児の目線で考えると気付けることがあるかも?

自分の成長を振り返ってみると、家庭や地域とどのような関わりがあったかな? 家庭や地域の一員での、みなさんの役割って何だろう?

楽しかった。体験の後、地域の幼児に挨拶をするようになったかも?





大根占幼稚園での保育実習の様子

「広げる力」を育む教育実践例 ②


保健体育 「バレーボールで、どう工夫すれば、サーブが上手になれるか」の話し合い活動


サーブを上手に打つために、自分の動きをどのように改善すればいいかな?

タブレットで、自分がどんな動きをしているか録画して確認したら?

お手本の動画と自分の動きを比較して、改善したらどう?

いいアイデアだね。自分のプレーを振り返り、目指す動きと比較して、改善に向けてグループで話し合っただう練習してみましょう。





プレー改善の話し合いの様子

振り返りを効果的にする視点(広げる力)の成果としては、各教科において、話し合い活動から思考したり、表現したりする場面が見られた。他者に対して積極的に働き掛け、協働して課題解決に取り組んだことが効果的な振り返りの取組にもつながっていた。課題としては、話し合い活動以外に、振り返りの工夫につながる「広げる力」を工夫していく必要があることが分かった。


(3) 振り返りを効果的にする視点: 学び行く力

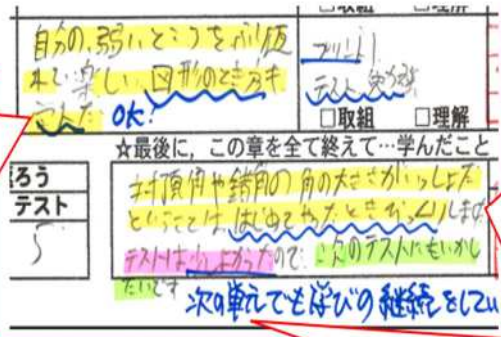
目指す生徒の姿を設定し、全教科の特質に応じた振り返りの工夫が見られた。ここでは、数学科・英語科の振り返りを効果的にする振り返りシートの工夫を掲載する。

- 「学び行く力」: 目指す生徒の姿
 - 1 めあてで書いたことが、できた(分かった)かどうかを振り返っている。
(自己理解・自己管理能力)
 - 2 「自分の考えが(授業前と比べて)どのように変わったか」を考えている。
(自己理解・自己管理能力)
 - 3 「新しく分かったこと」が何かを確かめている。
(課題対応能力)
 - 4 「友達の意見を聞いて、分かったことがあるかな」と考えている。
(人間関係形成・社会形成能力)
 - 5 「次の時間にしてみたいこと」を考えている。
(キャリアプランニング能力)

「学び行く力」を育む教育実践例 ①

数学


 授業者が生徒の理解状況等を見届け、生徒への評価を簡潔に行い、家庭学習への意識で生徒の意欲を高めています。




自分の弱いところを克服
本々しい。図形のときは
できた。ok!

☆最後に、この章を全て終えて…学んだこと
対頂角や錯角の角の大きさが一致する
とわかってはいたが、テストでは
テストはなかなかで、次のテストにもい
たいです


次の単元でもぜひの継続をしよう

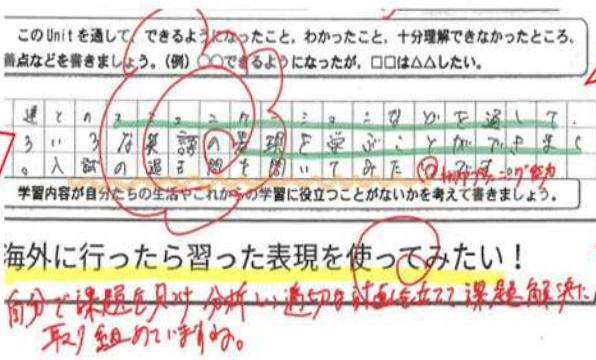
 学んだこと、できるようになったこと、他者の考えから分かったこと等を文章で表現します。また、次の学習に生かせそうなことや意気込み等を記述するので、具体的な意欲化・意識化につながっています。

 評価問題で、学力が定着し、家庭学習の課題と関連しているため、次の授業への意欲につながっています。

「学び行く力」を育む教育実践例 ②

英語


 他者の意見のよさや学んだことを次の学習に生かすことを意識するようになった。




このUnitを通して、できるようになったこと、わかったこと、十分理解できなかったところ、前点などを書きましょう。(例) できるようになったが、 は△△したい。

海外に行ったら習った表現を使ってみよう!

自分で課題を見つけて分析し適切な表現を使った課題解決
取り組むの大切。

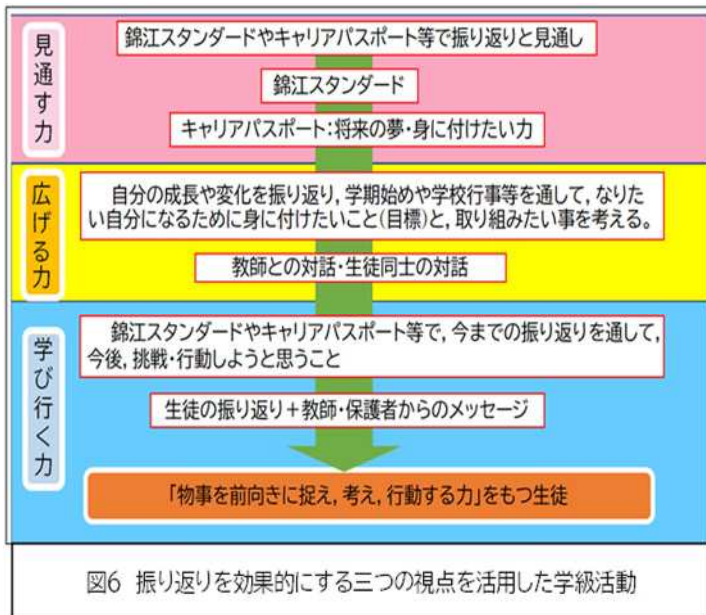
 単元全体の振り返りをすることで、何を学んだのかがつかめるようになった。

 生徒の理解度を把握しやすく、励ましや称賛の言葉掛けの機会を増やすことができます。

振り返りを効果的にする視点(学び行く力)の成果としては、生徒が課題に対して既習事項を活用したり、深く考えたりすることができるようになった。また、学習した内容を次の課題や日常生活に結び付けて考えたり、行動に生かしたりして挑戦しようとする姿が見られた。課題としては、関連付けさせるために、基礎的・基本的な学習内容の定着が重要となり、基礎・基本を徹底させる取組が必要であることが分かった。

(4) 振り返りを効果的にする視点: キャリア・パスポートや「錦江スタンダード」を活用した学級活動

錦江中学校区では、幼・小・中・高の15年間に亘り取り組めるキャリア・パスポートや「錦江スタンダード」の活用を実施している。異校種間での体験活動をその後の学習に生かす「錦江スタンダード」の作成、校種を越えて活用できる収録シートや資料等の厳選、実施事前・事後の学習を充実させる振り返りシートの工夫、振り返りの際の教師と保護者、地域人材とともに実施する「対話的な関わり」を重視した実践等を行った。また、「地域・企業等との連携による体験を通じた学び」の実践を行った。「社会に開かれた教育課程」を踏まえ、錦江町の未来を創る事業として、



家庭、地域、錦江町役場、錦江町教育委員会、一般企業(i.club)等と連携を取り、「錦江町アントレプレナーシップ教育事業」を実践した。職業人講話や職業人インタビュー、職場体験活動を通じた学びは、生徒が社会や未来の自分の世界との接点を発見する場となり、新たな学習課題や興味を発見し、自分に不足する部分や自己の発展・成長の可能性に気付く機会となっている。(図6)

9 研究の成果と今後の課題

3年生を対象に、アンケートを令和3年度と令和4年度に実施した(図7)。令和4年度のアンケート結果から4つの基礎的・汎用的能力の全てにおいて、4段階のうちの3段階以上の評価に向上した。アの項目から個々の課題やすべきことを自覚し、見通しをもって主体的・計画的に活動するようになったことが分かる。イとウの項目から

		4:いつもしている 3:時々している 2:あまりしていない 1:ほとんどしていない	
項目		R3.5	R4.4
ア	何かをするとき、見通しをもって計画的に進めたり、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んだりしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む) 【キャリアプランニング能力】	2.74	3.58
イ	自分の考えを深めたり、広げたりするために、分からないことを質問したり、発表や話し合い活動に積極的に取り組んだりしている。 【人間関係形成・社会形成能力】	4.0	3.90
ウ	人が困っているときは、進んで助けていますか。 【人間関係形成・社会形成能力】	4.0	3.91
エ	学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。 【自己理解・自己管理能力】 / 【課題対応能力】	3.66	4.0
オ	自分のことを大切に思っていますか。 【自己理解・自己管理能力】	3.44	3.57
カ	自分でやると決めたことは、難しいことでも失敗を恐れず挑戦したり、やり逃げたりするようになっていますか。 【自己理解・自己管理能力】 / 【課題対応能力】	3.88	3.69
キ	授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。 【課題対応能力】	3.77	3.66
ク	授業で学習したことを、普段の生活の中で活用しようと考えますか。 【キャリアプランニング能力】	—	3.02

図7 キャリア教育アンケート結果

自分や他者の考え・立場を理解しつつ、話し合いに積極的に参加できていることが分かる。エとオの項目から、学びがどの程度身に付いたか振り返ることにより、学びの有用性や必然性を見だし、学びから新たな気づきを得たり、自信を深めたりすることにつながっていることが分かる。オとカの項目から、多くの成就感・達成感を得てきた生徒が、自己肯定感や自己効力感が高く維持されていることが分かる。キとクの項目から、学んだことを「どう使うか」、社会でどのように役立つのか、生徒自身が身の回りのことに置き換えていることが分かる。

「振り返りの工夫」について、「生徒がどのように感じているか」のアンケート結果では、「振り返り活動」に

についての授業の経過に従って、「見通す力」が育まれていることを感じ始めた生徒が増えていることが分かる。(図8)

また、全教科で振り返り活動に取り組んだ結果、学力向上にもつながった。「キャリア教育に視点を当てた授業づくり」を研究テーマとして、全教科で「振り返りの工夫」に取り組んだことにより、キャリア教育に関わる意識の向上だけでなく、学力面でも、「思考力、判断力、表現力」等の課題の改善が見られている。黄色は県平均を超えた数値である。経年比較をしてみると、上がっている教科が多いことが分かる。(図9)

卒業時のアンケート結果では、「中学校3年間の授業を通して、あなたが学んだことは？」という質問の回答から、卒業時、「未来を見通す力をもつ生徒」が育まれていることが伺える。(図10)

「振り返り活動」についての生徒の声

【成果】

- ・ 振り返りシートで、授業の復習や予習ができる。
- ・ 振り返りでの反省と家庭学習がにつながるのがいい。
- ・ 授業での自分自身の理解度が分かる。
- ・ 先生からの毎時間のコメントやチェックがうれしい。
- ・ その日の反省ができるからいい。
- ・ 自分がどこができていなかったのか確認できる。

【課題】

- ・ 振り返りを書く時間がもう少し欲しい。
- ・ 学習した解き方をまとめるシートが欲しい。
- ・ 書くことに困ることがある。

図8 振り返りのアンケート結果

鹿児島学習定着度調査結果

国語		1年		2年	
		通過率	県比	通過率	県比
	令和元	77.8	-1.8	68.6	-5.9
	令和2	79.6	0.9	80.7	4
	令和3	78.8	5.2	73.3	-4

数学		1年		2年	
		通過率	県比	通過率	県比
	令和元	78.8	7.5	65.2	-4.5
	令和2	73.7	-1.1	80.8	13.8
	令和3	76.2	10.2	74.6	-4.4

社会		1年		2年	
		通過率	県比	通過率	県比
	令和元	62.7	-2.2	52.3	-8.9
	令和2	54.9	-9.5	66	-1.6
	令和3	72.3	2	64.2	-2.6

全教科で振り返りシートに取り組みました。この取組は、学力向上の結果にもつながりました。

理科		1年		2年	
		通過率	県比	通過率	県比
	令和元	76.4	11.6	55.9	-2.1
	令和2	71.6	1.3	75.7	4.9
	令和3	80.3	10.9	67.6	-1

英語		1年		2年	
		通過率	県比	通過率	県比
	令和元	78.2	10.3	67	6
	令和2	59.6	-8.4	61.7	3.9
	令和3	77.9	6.4	61.3	0.9

図9 鹿児島学習定着度調査結果(令和元年から3年)

(1) 研究の成果

- 学習の目的をより明確にしたり、個人の目標を設定したりすることで、学習活動の意義を意識しながら、主体的に活動するようになった。また、対話的な活動を通じ、学び合いを活性化することで、自己の考えを深め、他者に対して積極的に働き掛けるようになった。
- 振り返りに全教科で取り組むことにより、生徒は、自分や友達よさに気付き、次の学習へつなげる意識をもつようになった。
- 「錦江スタンダード」を通じて異校種間で児童生徒に身に付けさせたいことを共有することで、キャリア教育の視点で小中連携推進や授業づくりをすることができた。また、目指す児童生徒の姿を、具体的に設定することにより、目指す児童生徒像が鮮明になり、共通実践することができた。
- キャリア・パスポートを活用して、様々な体験活動後の取組で、保護者のコメント記入欄を設け、指導と評価の工夫等を通じて、少しずつではあるが、確実に将来に向けての成長につながる目標設定ができる生徒、将来の目標や進路について親子で話し合いをする生徒が増えてきている。

(2) 今後の課題

- △ より深い学びとするため、各授業での振り返りの更なる工夫をする必要がある。
- △ 異校種連携の系統的な内容を明確にし、より探究的な学習となる工夫をする。
- △ 個に応じたきめ細やかな指導を必要とする。キャリアカウンセリングの技法等の研修を深めていく。

教科におけるアンケート (令和3年卒業生)

Q:「中学校3年間の授業を通して、あなたが学んだことは？」

- ・ 様々な解き方がある。色々な視点で考えていきたい。
- ・ 苦手意識があっても、諦めずに最後まで解いてみる。
- ・ 問題が難しくなるにつれて、基本の大切さが分かった。
- ・ 答えに辿り着く道は1つだけではないということ。
- ・ 自分1人では答えが出せなかった問題があること。
- ・ 友達との協力で答えを導くことができること。
- ・ 少し見方や考え方を変えると見えてくるものが変わる。

図10 卒業時の教科授業アンケート